



なぜ質的研究の方法論が必要なのか？ 一分野を超えた連携の試みー



参加者：橋本陵汰（国際関係）・野田大夢（国際関係）
八尋佐聖（国際関係）・上田愛（国際関係）
平野貴寛（文学）・寺下和宏（神戸大学）

1、イントロダクション

・問題意識

「質的研究」の方法論
なんてないよね？



研究科や分野を超えた
研究会設計って難しい
（特に人文社会研究）



・解決策と活動目的

良いとされる研究を「分解」して
そのリサーチ・デザインを検討

内容ではなく「設計図」の部分
を議論

これにより・・・

- ①質的分析/調査の方法を学ぶ
- ②分野を超えた連携



3、成果

・成果としての修論

野田大夢「拡大するJ. トルドー政権下の移民・
難民受入への一考察— P. E. トルドーからJ. トル
ドーまでのカナダ移民・難民政策の変遷から」
八尋佐聖「日本の大学における内なる国際化
と多文化共生の検討について—立命館大学衣笠
キャンパスを例に—」
橋本陵汰「社会保障制度と家族・親族からみ
る東南アジア諸国の福祉」

・修士論文報告会の開催

→研究科間、学年間、分野間のつながり強化
=大学院正課授業の穴埋め機能



いろんな研究を分解す
ることで、研究の組み
立て方（構成）や自分の
研究に使える部分・表
現を参考にできた

分析対象の選び方や結
論までの筋道の立て方、
説明範囲などの分野に
よる違いや同じところ
を比較できた

2、方法

・運営方法

各自が必ず課題文献を読み、レジュメを作成

・参加者の専門と関心

専門：社会学、カルチュラル・スタディーズ、政治学、地域研究
関心：移民、教育、ネトウヨ、東南アジア



・課題文献

著者・文献	分析対象/手法	分野
丸山里美『女性ホームレスとして生きる：貧困と排除の社会学』	女性ホームレスを取り巻く社会のフィールドワーク	福祉社会学
高馬京子「越境する geisha—現代フランスの新聞における「日本女性」像の構築」	フランスの新聞を対象にした言説分析	カルチュラル・スタディーズ
田村慶子「多民族国家シンガポールの政治と言語：「消滅」した南洋大学の25年」	南洋大学関係者への聞き取りデータを用いた過程追跡	地域研究（東南アジア）
富永京子『社会運動のサブカルチャー化：G8 サミット抗議行動の経験分析』	G8サミット抗議運動参加者に対する聞き取り調査	社会運動論
大山真司「アジアを目指す日本ファッション：トランスナショナルなメディアとファッション」	日本におけるファッション雑誌および関連企業への聞き取り調査	カルチュラル・スタディーズ
末近浩太『現代シリアの国家変容とイスラーム』	シリアにおけるイスラーム主義が描かれたメディアやインタビュー調査	地域研究（中東）
手塚沙織「高度人材のグローバル移動における国家の役割：知識集約型産業の拡大によるアメリカの高度人材に対する移民政策の立案過程の検証から」	アメリカ・シリコンバレーにおける企業へのフィールドワーク	移民研究
藤美帆『日本の企業と大学における国際化の現状：外国人留学生に着目した実証研究』	留学生に対するインタビュー調査	教育社会学
重富真一「NGOのスペースと現象形態：第3セクター分析におけるアジアからの視角」	（東南アジアにおけるNGOに対するフィールドワーク）	NGO論
平井智尚「2ちゃんねるのコミュニケーションに関する考察：インターネットと世論形成に関する議論への批判」	2ちゃんねるの投稿を言説分析	メディア論

*このほか、前年度修士論文報告会、研究報告会、修論報告会を開催

4、議論と課題

・質的調査/分析の方法論に向けて

フィールドに出る前に何らかのTipsはやはり必要（お作法としての「方法論」）
→経験知/職人芸を蓄積・継承することが必要
なのではないか？

・今後の運営課題

質的研究方法論の「カリキュラム」化

質的研究は・・・

インタビューだけじゃない！！

- ・調査：インタビューの各手法、参与観察、資料収集、エスノグラフィー
- ・分析：言説分析、計量テキスト分析、事例比較、カテゴリー分析など

